

様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	ガクホカクシン ヒカシニホカクケン 学校法人 東日本学園								
フリガナ大学の名称	ホッカイドウイヨクカクイカクイカクケン 北海道医療大学大学院 (Graduate School of Health Sciences University of Hokkido)								
大学本部の位置	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地								
大学の目的	北海道医療大学大学院は、生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育を推進し、人間性豊かな専門職業人の育成ならびに独創的な研究活動を通して、社会の発展と人類の幸福に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	薬学を基盤として、高度な専門知識と臨床能力及び研究能力を兼ね備え、先進医療の推進さらには地域医療の発展に指導的な役割を担うことのできる高度専門職業人の養成								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	14条特例の実施
	薬学研究科 (Graduate School of Pharmaceutical Sciences) 薬学専攻博士課程 (Doctoral Program in Pharmaceutical Science) 計	4年	3人	-	12人	博士(薬学)	平成24年4月 第1年次	北海道石狩郡当別町 字金沢1757番地	
同一設置者内における状況(定員の移行、名称の変更等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬学研究科薬学専攻博士後期課程(廃止) (△4) ※平成24年4月学生募集停止</li> <li>薬学部薬学科 定員変更(入学定員増 10)</li> <li>歯学部歯学科 定員変更(入学定員減 △20)</li> <li>看護福祉学部看護学科 定員変更(入学定員増 10 3年次編入学定員減 △1)</li> <li>同上学部 臨床福祉学科 定員変更(入学定員減 △10 3年次編入学定員減 △1)</li> <li>心理科学部臨床心理学 定員変更(入学定員増 10 3年次編入学定員減 △3)</li> <li>同上学部 言語聴覚療法学科 定員変更(入学定員増 7 3年次編入学定員増 1)</li> </ul>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	薬学研究科 薬学専攻博士課程	講義	演習	実験・実習	計	30 単位			
教員	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等
	新設	薬学研究科薬学専攻博士課程	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
組織の概要	新設	薬学研究科薬学専攻博士課程	13 (15)	11 (12)	13 (13)	11 (11)	48 (51)	0 (0)	0 (0)
		計	13 (15)	11 (12)	13 (13)	11 (11)	48 (51)	0 (0)	0 (0)
	既設	薬学研究科生命薬科学専攻修士課程	12 (14)	10 (11)	12 (12)	10 (10)	44 (47)	0 (0)	0 (0)
		歯学研究科博士課程	19 (19)	19 (19)	15 (15)	45 (45)	98 (98)	35 (35)	6 (6)
		看護福祉学研究科 看護学専攻博士後期課程	10 (10)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	26 (26)	0 (0)	2 (2)
		看護福祉学研究科 臨床福祉学専攻博士後期課程	7 (7)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	10 (10)	0 (0)	2 (2)
		看護福祉学研究科看護学専攻 博士前期課程	10 (10)	7 (7)	1 (1)	14 (14)	32 (32)	0 (0)	15 (15)
		看護福祉学研究科 臨床福祉学専攻博士前期課程	7 (7)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	8 (8)
		心理科学研究科 臨床心理学専攻博士後期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		心理科学研究科 言語聴覚学専攻博士後期課程	5 (5)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
		心理科学研究科 臨床心理学専攻博士前期課程	6 (6)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	3 (3)
		心理科学研究科 言語聴覚学専攻博士前期課程	5 (5)	4 (4)	4 (4)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	4 (4)
		計	86 (88)	53 (54)	36 (36)	98 (98)	273 (276)	35 (35)	40 (40)
		合計	87 (89)	54 (55)	37 (37)	99 (99)	277 (280)	35 (35)	40 (40)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		54 ( 54 )	47 ( 47 )	101 ( 101 )	人				
	技 術 職 員		8 ( 8 )	10 ( 10 )	18 ( 18 )	人				
	図 書 館 専 門 職 員		2 ( 2 )	15 ( 15 )	17 ( 17 )	人				
	そ の 他 の 職 員		56 ( 56 )	55 ( 55 )	111 ( 111 )	人				
計		120 ( 120 )	127 ( 127 )	247 ( 247 )	人					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	歯学部附属歯科衛生士専門学校と共用  大学全体				
	校 舎 敷 地	64,222.53㎡	1,650.00㎡	0㎡	65,872.53㎡					
	運 動 場 用 地	27,800.00㎡	0㎡	0㎡	27,800.00㎡					
	小 計	92,022.53㎡	1,650.00㎡	0㎡	93,672.53㎡					
	そ の 他	57,315.74㎡	0㎡	0㎡	57,315.74㎡					
合 計	149,338.27㎡	1,650.00㎡	0㎡	150,988.27㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		59,373.26㎡ ( 59,373.26㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)	59,373.26㎡ ( 59,373.26㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	35室	27室	31室	1室 (補助職員0人)	2室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		薬学研究科薬学専攻博士課程			55	室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
	薬学研究科 薬学専攻博士課程	257,450 [78,100] (234,946 [77,469])	3,020 [1,260] (2,967 [1,236])	3,500 [2,880] (3,500 [2,880])	5,860 (5,354)	64,300 (64,293)	2,180 (2,173)			
	計	257,450 [78,100] (234,946 [77,469])	3,020 [1,260] (2,967 [1,236])	3,500 [2,880] (3,500 [2,880])	5,860 (5,354)	64,300 (64,293)	2,180 (2,173)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		4,866.96 ㎡		437 席	275,000 冊					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		1,746.49 ㎡		屋外野球場・サッカー/ラグビー場・テニスコート (27,800㎡) フィットネスセンター (411㎡)						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体
		教員1人当り研究費等		491千円	491千円	491千円	491千円			
		共同研究費等		130,849千円	130,849千円	130,849千円	130,849千円			
		図書購入費	53,489千円	53,489千円	53,489千円	53,489千円	53,489千円			
		設備購入費	237,739千円	237,739千円	237,739千円	237,739千円	237,739千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		950千円	750千円	750千円	750千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			雑収入等							
既設大学等の状況	大 学 の 名 称	北海道医療大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	薬学部 薬学科	6	150	3年次 10	940	学士 (薬学)	1.13	昭和49 年度	北海道石狩郡 当別町宇金沢 1757番地	
	歯学部 歯学科	6	100	—	600	学士 (歯学)	0.73	昭和53 年度		
	看護福祉学部 看護学科	4	90	3年次 10	380	学士 (看護学)	1.02	平成5 年度		
	臨床福祉学科	4	90	3年次 10	380	学士 (臨床福祉学)	0.80	平成5 年度		
	心理科学部 臨床心理学科	4	65	3年次 5	265	学士 (臨床心理学)	1.18	平成14 年度		
言語聴覚学科	4	53	3年次 9	227	学士 (言語聴覚療法)	1.26				

既設大学等の状況	大学の名称	北海道医療大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	薬学研究科 薬学専攻博士後期課程	3	4	—	12	博士 (薬学)	0.33	昭和57年度	北海道石狩郡 当別町字金沢 1757番地
	薬学専攻博士前期課程	2	—	—	—	修士 (薬学)	—	昭和53年度	
	医療薬学専攻修士課程	2	—	—	—	修士 (薬学)	—	平成8年度	
	生命薬科学専攻修士課程	2	3	—	6	修士 (生命薬科学)	0.83	平成22年度	
	歯学研究科歯学専攻 博士課程	5	18	—	72	博士 (歯学)	0.66	昭和63年度	
	看護福祉学研究科 看護学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士 (看護学)	0.50	平成11年度	
	臨床福祉学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士 (臨床福祉学)	0.00	平成16年度	
	看護学専攻博士前期課程	2	15	—	30	修士 (看護学)	1.03	平成9年度	
	臨床福祉学専攻博士前期課程	2	5	—	10	修士 (臨床福祉学)	0.80	平成16年度	
	心理科学研究科 臨床心理学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士 (臨床心理学)	0.66	平成16年度	
	言語聴覚学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士 (言語聴覚学)	0.00	平成18年度	
	臨床心理学専攻博士前期課程	2	10	—	20	修士 (臨床心理学)	0.95	平成16年度	
	言語聴覚学専攻博士前期課程	2	5	—	10	修士 (言語聴覚学)	0.20	平成18年度	
	附属施設の概要	<p>名称 個体差健康科学研究所 目的 本学の行動指針「21世紀の新しい健康科学の構築」に基づき、文理統合による個体差健康科学の確立を目指し、併せて人類の健康と医療の発展に寄与することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成14年1月 規模等 土地：524.00㎡ 建物：808.45㎡</p> <p>名称 動物実験センター 目的 研究・教育の用に供するため、実験動物を飼育管理し、実験実施者に対して、実験動物に関する情報を提供することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和63年12月 規模等 土地：624.00㎡ 建物：1,866.70㎡</p> <p>名称 アイソトープ研究センター 目的 放射性同位元素並びに放射線関係の施設及び機器等を総合的に管理し、これを諸分野の研究・教育のための共同利用に提供することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和57年3月 規模等 土地：1,650.00㎡ 建物：1,239.09㎡</p> <p>名称 個体差医療科学センター 目的 地域医療の充実に貢献するため、医科学関連分野における研究を行うことを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：6,392.73㎡ 建物：9,702.49㎡</p> <p>名称 北海道医療大学病院 目的 歯学教育等に係る臨床・研究の場として機能するとともに、歯科及び内科の診療を通じて地域医療の向上に寄与することを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：6,392.73㎡ 建物：9,702.49㎡</p> <p>名称 歯科内科クリニック 目的 歯学教育等に係る臨床・研究の場として機能するとともに、歯科及び内科の診療を通じて地域医療の向上に寄与することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：3,848.00㎡ 建物：7,772.48㎡</p> <p>名称 心理臨床発達支援センター 目的 心理臨床、発達支援に関する研究・研修・調査を行うとともに、本学大学院心理学研究科臨床心理学専攻修士課程学生の心理臨床実習の場としての機能を果たすことを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成15年6月 規模等 建物：141.9㎡</p>							

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称 薬学部附属薬用植物園          目的 薬学教育の一環として、学生が薬用植物や生薬についての生きた知識を学ぶとともに、研究に資することを目的とする。          所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地          設置年月 昭和60年9月          規模等 総面積：2,558.00㎡(内、温室341.46㎡)</p> <p>名称 北方系生態観察園          目的 日本薬局方に収載されている薬用植物をはじめ、様々な野鳥、昆虫、小動物などの観察園として活用することを目的としている。          所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地          設置年月 平成13年6月          規模等 総面積：153,000㎡</p> <p>名称 北方系伝統薬物研究センター          目的 絶滅危惧種の栽培法の確立と遺伝子保存を進めるとともに、アイヌが伝承してきた北方系伝統薬物の生物多様性解析を通じて未知の薬効成分を探索して創薬に結びつけることを目的としている。          所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地          設置年月 平成21年8月          規模等 土地：342.00㎡ 建物：552.60㎡</p>	
----------------	--	--

教 育 課 程 等 の 概 要														
(薬学研究科薬学専攻博士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
医療薬学基盤科目	医薬品開発特論Ⅰ	1・2		2		○			1					
	医薬品開発特論Ⅱ	1・2		2		○			1					
	臨床薬理学特論	1・2		2		○					1			
	生体機能解析学特論	1・2		2		○					1			
	食品機能解析学特論	1・2		2		○			1					
	予防医療学特論	1・2		2		○			1					
	ゲノム解析学特論	1・2		2		○			1					
	感染症学特論	1・2		2		○			1					
	薬動学特論	1・2		2		○			1					
	薬物分析化学特論	1・2		2		○			1					
	医薬品作用学特論	1・2		2		○			1					
	臨床薬物動態学特論	1・2		2		○			1					
	薬剤疫学特論	1・2		2		○			1					
	漢方薬学特論	1・2		2		○				1				
小計（14科目）	—		28		—			12	1	2				
医療薬学応用科目	画像診断学特論	3・4		2		○			1					
	臨床診断学特論	3・4		2		○			1					
	病態解析学特論	3・4		2		○				1				
	地域医療実践学特論	3・4		2		○				1				
	環境感染学特論	3・4		2		○			1					
	医薬品情報演習	3・4		1			○			1				
	EBM実践演習	3・4		1			○		1					
	TDM実践演習	3・4		1			○		1					
	薬物相互作用解析演習	3・4		1			○		1					
	臨床薬学総合実習	2~4		4				○	3					
小計（10科目）	—		18		—			8	3					
究基盤目研	実験計画演習	1	2				○		13					
	情報処理演習	1	2				○		13					
	基盤研究総合実習	1	2					○	13	10	13			
	小計（3科目）	—	4	2		—			13	10	13			
研課究題	課題研究	1~4	10					○	13	3				
	小計（1科目）	—	10			—			13	3				
科薬専門目師	専門薬剤師特別講義	1~4		2	○				3					
	小計（1科目）	—			—				3					
合計（29科目）		—	14	48		—			13	11	13			
学位又は称号			博士（薬学）			学位又は学科の分野			薬学関係					
修了要件及び履修方法								授業期間等						
必修科目14単位（基盤研究科目4単位、課題研究10単位）及び選択科目16単位以上（医療薬学基盤科目10単位以上、医療薬学応用科目6単位以上）の合計30単位以上修得し、必要な研究指導を受け、学位論文の審査および最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2学期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			80分			

教育課程等の概要																
(薬学部薬学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学教育科目	導入科目	基礎ゼミナル	1前	2					○		5	3	12			
		文章指導	1後	2				○			1		7			
	教養科目	人間と思想	1前		2			○								兼1
			1前		2			○								兼1
			2前		2			○								兼1
			2前		2			○								兼1
	人間と文化	2前		2			○									兼1
		2前		2			○									兼1
	人間と社会	1後		2			○						1			兼1
		1後 2後		2 2			○ ○									兼1
	外国語科目	英語 I	1前	1				○						1		兼1
			2前	1				○								兼3
		英語 II	1後	1				○						1		兼2
			2後	1				○						1		兼3
	フランス語	1後		1			○									兼1
		2前		1			○									兼1
	ドイツ語	1後		1			○									兼1
		2前		1			○									兼1
	健康・運動科学科目	運動科学演習	1前	1						○						兼2
			1後		1					○						兼2
自然科学科目	情報科学	1後	2				○				2					
		1前	2				○				1					
	物理学	1前	2				○			1						
		1前	2				○			1						
	生物学	1前	2				○					1				
		1後	2				○					1				
	1後	2					○					1				
		1前		2			○			2			2			
1前	2		2			○										
	1前		2			○			1							
自然科学実験	1通	4						○	3		2			兼5		
医療基盤科目	医療基盤科目	1前	2				○					2			兼13	
		2通			2			○				1				
		3通			2				○				1			
	医療倫理	2前	2				○					1				
小計 (20科目)		—	33.0	29	4				—	7	3	14			兼43	
専門教育科目	基礎薬学科目	医療推計学	3後		1			○			1	1				兼1
		薬学英语 I	3前	1				○					1			
		基礎薬学概論	1前	1				○			4	3				
		化学計算演習	2前		1				○		1		1			
		無機化学	1後	1.5				○			1					
		薬品物理化学 I	2前	1.5				○			1					
		薬品物理化学 II	2後	1.5				○			1					
		放射薬品学	3前	1.5				○			1	1				
		薬品分析化学 I	1後	1.5				○			1					
		薬品分析化学 II	2前	1.5				○				1				
		臨床分析学	3後	1				○			1	1				
		機器分析学	2後	1.5				○			1					
		有機構造分析学	3前		1.5			○					1			
		基礎薬学 I 実習	2後	2						○	3	2	1			
		基礎有機化学	1前	1.5				○			1					
有機化学 I	2前	1.5				○			1							
有機化学 II	2後	1.5				○			1							
有機化学 III	3前	1.5				○					1					
有機化学演習	2前	1						○				2				

\*3科目6単位履修

教育課程等の概要															
(薬学部薬学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	薬品合成化学	3後	1.5			○			1						兼1
	医薬品化学Ⅰ	4前	1.5			○			1						
	医薬品化学Ⅱ	4後		1		○			2						
	生薬学Ⅰ	2前	1.5			○									
	生薬学Ⅱ	2後	1.5			○				1					
	植物薬品化学	3後		1		○				1					
	基礎薬学Ⅱ実習	2後	2					○	2	2	2				
	薬用植物学	1前	1.5			○				1					
	基礎生化学	2前	1.5			○			1		1				
	生化学Ⅰ	2後	1.5			○			1						
	生化学Ⅱ	3前	1.5			○			1						
	微生物学	2前	1.5			○			1						
	微生物化学	2後	1			○			1						
	免疫学	3後	1.5			○			1		1				
	基礎解剖学	1前	1.5			○			1	2					
	遺伝子工学	3後		1		○			1						
	漢方薬学概論	4後		1		○			1						
	薬局方概論	2後	1			○			1						
	薬品試験法	3後		1.5		○				1					
	薬科学特論Ⅰ	5・6前	1			○			1	1	1				
	薬科学特論Ⅱ	5・6前		1		○			1	1	2				
	薬科学特論Ⅲ	5・6前	1			○			3	2	1				
	薬科学特論Ⅳ	5・6前		1		○			3	2	1				
	薬科学特論Ⅴ	5・6前	1			○			2	1	2				
	薬科学特論Ⅵ	5・6前		1		○			2	1	2				
	基礎薬学総合講義	6後	1			○			7	4	5				
	基礎薬学Ⅲ実習	3前	2					○	2		2				
	薬学特別演習Ⅰ	2前		1				○	4	2	1				
	薬学特別演習Ⅱ	3前		1				○	4	1	4				
	小計（48科目）		—	49.0	14.0				—	8	6	6			
医療薬学科目	薬学英語Ⅱ	4前	1			○			17	10	15				
	生理化学	3前	1.5			○			1	1	1				
	病理学	3前	1.5			○			1	1	1				
	病態生理学Ⅰ	3前	1			○			2	2	1				
	病態生理学Ⅱ	3後	1			○			2		1				
	臨床医学概論Ⅰ	2後	1			○			1	1					
	臨床医学概論Ⅱ	3前	1			○			1	1					
	薬理学Ⅰ	2後	1.5			○			1		1				
	薬理学Ⅱ	3前	1.5			○			2						
	臨床薬理学Ⅰ	3後	1			○			1	1	1				
	臨床薬理学Ⅱ	4前	1			○			1	1					
	薬物療法学	4前	1			○			3	1					
	薬物治療学入門	2前	1			○			2	1	1				
	毒理学	4前	1			○			1	1	1				
	生物薬剤学	3後	1.5			○			1						
	薬物動態学	4前	1.5			○			1						
	物理薬剤学	3前	1.5			○			1						
	分子生物薬剤学	4後		1		○			1		1				
	調剤学Ⅰ	4前	1.5			○			1		2				
	調剤学Ⅱ	4後	1.5			○			2	1	1				
	製剤学	3後	1.5			○			1	1					
	製剤設計学	4前	1			○			1						
	医療薬学概論	1前	1			○			5	1	1				
薬物代謝学	3後	1.5			○			1							
薬剤疫学	4後		1		○			1							
医薬品情報学	4前		1		○			1	1						
臨床診断学	4前	1			○			1	1						

教育課程等の概要															
(薬学部薬学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
医療薬学科目	実務実習前特別演習Ⅲ	4後	1					○		3	1	4			
	実務実習前特別演習Ⅳ	4後	1					○		4	1	5			
	臨床薬物動態学	4後	1				○			3		1			
	医療薬学特論Ⅰ	5・6前	1				○			2	3	1			
	医療薬学特論Ⅱ	5・6前		1			○				1			兼5	
	医療薬学特論Ⅲ	5・6前		1			○			3		1			
	医療薬学特論Ⅳ	5・6前	1				○			2	1	2			
	医療薬学特論Ⅴ	5・6前		1			○			2	1	3			
	医療薬学総合講義Ⅰ	6後	1				○			3	2	3			
	医療薬学総合講義Ⅱ	6後	1				○			4	2	3			
	薬学特別演習Ⅳ	4前		1				○		2		2			
	実務実習前特別実習Ⅱ	4後	1						○	3	1	4			
	実務実習前特別実習Ⅲ	4後	1						○	4	2	6			
	医療薬学Ⅰ実習	4前	2						○	3	3	3			
	医療薬学Ⅱ実習	4後	2						○	2	1	2			
	医療薬学Ⅲ実習	5前	4						○	2	1	3			
	実務実習(病院)	5～6	10						○	2	1	3			
	実務実習(薬局)	5～6	10						○	2	1	3			
	小計(45科目)		—	66.5	7.0				—	17	10	16			兼5
	専門教育科目	医療人間学	3前		1			○				2	3		兼3
		薬事法制Ⅰ	4前	1				○				1			
薬事法制Ⅱ		4後		1			○				2	1			
社会薬学特論Ⅰ		5・6前		1			○			4	2	6			
社会薬学特論Ⅱ		5・6前	1				○			3	2	1			
薬局管理論		4前		1			○					2		兼1	
公衆衛生学		2前	1.5				○			1					
衛生化学		3前	1.5				○			1					
食品衛生学		3後	1.5				○			1					
環境衛生化学		2後	1.5				○			1					
中毒学		3前		1.5			○				1				
食品予防栄養学		4前	1				○			1					
医療福祉論		2前		1			○							兼1	
老人福祉論		4前		1			○							兼1	
在宅ケア論		4後	1				○					2		兼1	
医療コミュニケーション		4前	1				○			2	1	3			
医療福祉活動演習		3前		1				○		1	3	6		兼1	
地域福祉論		3後		1				○						兼1	
社会薬学総合講義		6後	1				○			3	2	3			
薬学特別演習Ⅲ		3後		1				○		5	1	3			
衛生薬学実習		3後	2						○	3	2	2			
実務実習前特別演習Ⅰ	4後	1						○	7	4	5				
実務実習前特別演習Ⅱ	4後	1						○	5	3	3				
実務実習前特別実習Ⅰ	4前	1						○	2	1	3				
小計(24科目)		—	17.0	10.5				—	17	11	17			兼8	
総合薬学研究	5～6	4						○	17	9	15				
小計(1科目)		—	4					—	17	9	15				
薬学基礎研究Ⅰ	2通				1			○	17	13	15				
薬学基礎研究Ⅱ	3通				1			○	17	13	15				
薬学基礎研究Ⅲ	4通				1			○	17	13	15				
小計(3科目)		—			3			—	17	13	15				
計(121科目)		—	136.5	31.5	3			—	21	13	20			兼56	
合計(141科目)		—	169.5	60.5				—							
学位又は称号	学士(薬学)		学位又は学科の分野					薬学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
全学教育科目 41単位以上履修(必修 33単位、選択 8単位以上)								1学年の学期区分			2学期				
専門教育科目 158単位以上履修(必修 91.5単位、選択 21.5単位、実習 15単位、実務実習 24.0単位、総合薬学研究 4単位)								1学期の授業期間			15週				
全学教育科目及び専門教育科目を総計 199単位以上履修(必修 124.5単位、選択 29.5単位、実習 15単位、実務実習 24.0単位、総合薬学研究 4単位)								1時限の授業時間			80分				

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学研究科薬学専攻博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学 基盤 科目	医薬品開発特論 I	医薬品の創製において、目的とするものだけをいかに効率良く、しかも短い工程で合成するか、多くの優れた合成化学者達が知恵を絞って来た。この講義では、それらの歩みを辿りながら、その工程のどこがキポイントで、どのようにしてブレークスルーが成し遂げられたかを学び、これからの医薬品合成の糸口を検討することを目的とする。	
	医薬品開発特論 II	本講義では、医薬品開発の基本的知識となる医薬品の作用する生体内の標的分子およびそれらとの化学的相互作用、リード化合物の探索および最適化について解説する。	
	臨床薬理学特論	精神疾患及び中枢神経変性疾患の治療に不可欠な脳機能解析を学び、分子機構を含む病因・病態に基づいた治療薬に関する最新の知見を修得する。	
	生体機能解析学特論	酵素は生体内のあらゆる物質の生産、分解を制御する化合物であり、各酵素に特異的に作用する化合物は生理活性物質として医薬品候補となる。そこで、特異的相互作用の起源となる分子間相互作用の基礎から説き起こし、酵素の構造-活性相関および生理活性物質の設計の方法論について概説する。	
	食品機能解析学特論	食品に含まれる非栄養成分の生体調節機能や有害作用のメカニズムに関する分子レベルの解析などについて、最新の研究を紹介し、疾病予防や有害作用の予防の展望について講述する。	
	予防医療学特論	『予防医療学』では、病気にならずに健康維持・増進を図るため、治療のみにとらわれず、さらに進んだ疾病予防を目的とした医療を、セルフメディケーションの立場から理解し、科学的根拠に基づく積極的な生活習慣改善法を構築し、地域保健への情報発信を学ぶ。	
	ゲノム解析学特論	本講義は遺伝子の構造や機能だけでなく、遺伝子やタンパク質の相互作用などを通して、複雑な生命活動を理解することを目的とする。また、ゲノム情報の利用、特に一塩基多型に基づくテーラーメイド医療についても解説する。	
	感染症学特論	ウイルスの増殖及びウイルス感染に対する生体防御機構を個体、臓器・組織、細胞、分子レベルで講じる。ついで、インフルエンザ、ヘルペス、肝炎、HIV感染症を中心に抗ウイルス化学療法の現状と将来を講じる。	
	薬動学特論	臨床でよく使用されるのは抗菌薬のPK-PDパラメータでAUC/MIC、AUC <sub>0-24</sub> /MIC、t <sub>1/2</sub> >MIC、C <sub>max</sub> /MIC (C <sub>peak</sub> /MIC) などがある。本講義では、抗菌薬を例にPK-PD理論の最新の知見を修得する。	
	薬物分析化学特論	血液、尿など生体由来試料中の微量成分や薬物的確な定量分析法の開発は、各種疾患の診断、治療に有用となる。しかしながら、生体試料のような複雑なマトリックスの中から目的成分を信頼できる精度で定量することは困難を極める。本講義では、これら生体試料的確なクリーンアップ法、目的成分的確な分析方法の選択、および各種機器分析法による目的成分の効率の良い分析法の開発について講述する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(薬学研究科薬学専攻博士課程)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学 基盤科目	医薬品作用学特論	生体機能の理解や疾病の病態生理研究の進歩により、近年新しい医薬品、特に生物学的製剤や分子標的薬が開発・臨床応用され、高い治療効果を上げている。本講義ではそのような医薬品に焦点を当て、その作用機序や副作用、使用上の問題点などを解説する。	
	臨床薬物動態学特論	医薬品の体内動態は、疾病の種類や程度によって多様に変動する。本講義では、腎、肝、循環器における急性および慢性疾患での薬物動態変化について、最新の知見を修得する。	
	薬剤疫学特論	医療現場における薬剤師による臨床研究の立案と、統計解析法の基礎と応用について学ぶ。また、具体例を用いながらバイアスや交絡を回避する方法について修得する。	
	漢方薬学特論	漢方薬には200種類をこえる様々な生薬が用いられている。生薬に含まれる化学物質の特性を理解することは漢方薬利用に不可欠である。本講義では代表的な植物由来生薬成分の生合成メカニズムと作用機序を学習する。	
医療薬学 応用科目	画像診断学特論	画像診断は、疾病の診断のみならず、治療効果の判定、治療方針の決定など、医療に不可欠なものとなっている。本講義では、生体内の分子・細胞レベルでの現象を非侵襲的に検出し画像化する、分子イメージングに関する知識を修得する。	
	臨床診断学特論	医学的知識は、患者の病気の診断や病状の変化を正確に把握するために、病院薬剤師や調剤薬局薬剤師はじめ訪問薬剤師の活動に必須である。臨床検査医学の進歩は著しく、本講義では、医学書や医学雑誌の症例の臨床データを検討しながら病変の理解を深める。最新の臨床検査値の解釈法や、病理所見や臨床徴候を併せて病態の解釈法について学ぶ。	
	病態解析学特論	病態の把握と治療には、有効な検査手法の開発と、その疾病の発現に影響を及ぼす諸因子の解析などの科学的かつ分析的な研究が必要である。こうした研究の最新の成果や知識を講義を通じて修得する。	
	地域医療実践学特論	医療経営に関わる医薬品管理には、採用薬見直しや在庫管理など数量的な管理と、ジェネリック医薬品導入や価格交渉などの金額面での管理が必要である。医薬品管理についてエビデンスや使用目的により、有効性、安全性、品質、適合性そして経済性などに基づいて評価することを解説する。	
	環境感染学特論	最近の医療機関などにおける感染対策の現状と課題について学ぶ。その中で、チーム医療での感染制御活動における薬剤師の役割について論述する。	
	医薬品情報演習	医薬品の適正使用や医療安全の推進に不可欠である医薬品情報の収集、解析、評価および提供の方法について演習を行う。また、臨床で問題となっているテーマについても演習を行い、情報を提案することを目指す。	
	E BM実践演習	臨床研究の模擬データを用いて、具体的な統計解析を行う。また、得られた結果から新たな問題を提起し、これを解決するための方法について討論する。	
	T DM実践演習	T DMの実際について、模擬データを用いて医薬品の投与設計を行う。また、得られた結果から色々な問題点を提起し、解決策について討議する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(薬学研究科薬学専攻博士課程)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学応用科目	薬物相互作用解析演習	薬物相互作用の予測と回避は、医薬品の適正使用を遂行する上で極めて重要である。本講義では、医薬品の投与量および薬物血中濃度を基に、相互作用の発現について in vitro と in vivo の相関性を評価する方法を修得する。	
	臨床薬学総合実習	医療機関において専門医・専門薬剤師の指導により臨床研究を展開し、高い専門性と臨床能力を有する専門薬剤師の養成を目指す。 <概要> ・実施期間：原則として5ヵ月間とする。 ・実施機関：研究テーマとの関連で適切な医療機関を選定。 ・実施時期：研究計画及び計画の進捗状況を勘案のうえ実施する医療機関との調整により設定。	
基盤研究科目	実験計画演習	指導教員の指導のもと、それぞれの課題研究に関連する様々な実験手法や機器分析法などを学ぶとともに、実験計画の立案法など、論文作成に向けて基礎的な研究法に関する能力を養う。	
	情報処理演習	指導教員の指導のもと、それぞれの課題研究に関連する文献調査などを通じて高度な情報収集能力と情報解析能力、さらには英語（語学）力並びにプレゼンテーション能力などの修得をめざす。	
	基盤研究総合実習	所属する研究分野以外の異なる2つの研究分野における研究手法を学ぶことにより、専門領域にとらわれない広い研究視野を修得するとともに、修得した他分野の研究手法等を専門分野の課題研究に応用する能力の修得をめざす。  小田和明・西園直純 ・薬物と代謝酵素の相互作用解析法の修得 石倉稔・山田康司 ・生理活性物質の構造活性相関解析法の修得 黒澤隆夫・村井毅 ・生体内微量成分の超高感度測定法の修得 大倉一枝・秋澤宏行 ・画像診断薬によるイメージング技術の修得 豊田栄子・居弥口大介 ・酵素活性解析法の修得 青木隆・浜上尚也 ・遺伝子機能評価法の修得 岡崎克則・大澤宜明 ・ウイルスの遺伝子変異解析法の修得 和田啓爾・小林大祐 ・食品成分の単離法と機能評価法の修得 増田園子・遠藤哲也・寺崎将 ・培養がん細胞を用いた抗腫瘍効果分析法の修得 平藤雅彦・飯塚健治・町田拓自 ・初代培養細胞を用いた薬効解析法の修得 島村佳一・大橋敦子・木村真一 ・電気生理学的手法による生体機能解析技術の修得 富樫廣子・松本真知子・柳川芳毅 ・動物モデルを用いた脳機能解析の修得	

## 授 業 科 目 の 概 要

(薬学研究科薬学専攻博士課程)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤研究科目	(基盤研究総合実習)	<p>齊藤浩司・小田雅子 ・薬物の体内動態解析法の修得</p> <p>小林道也・伊藤邦彦 ・薬物の臓器特異的移行性の評価法の修得</p> <p>唯野貢司・千葉薫・中山章 ・薬物血中濃度モニタリング技術の修得</p> <p>高上馬希重・堀田清 ・生薬成分の単離と分析法の修得</p> <p>八木直美 ・種々製剤の試作と評価法の修得</p>	
課題研究	課題研究	<p>(概要) 専門分野にかかわる特定の研究課題を設定して、各研究分野の特論・演習・実習で修得した知識・技能を活かして研究を実践し、その成果を博士論文としてまとめる。</p> <p>小田和明 薬化学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・フラノクマリンおよびベンゾフランとシトクロムP450の相互作用における構想活性相関</p> <p>石倉稔 薬化学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・生理活性インドールアルカロイドの合成と薬効評価</p> <p>高上馬希重 生薬学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・薬用植物成分の生理活性に関する研究</p> <p>大倉一枝 薬品物理化学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・核医学画像診断および治療薬剤の開発と臨床評価</p> <p>黒澤隆夫 薬品分析化学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・胎児-新生児期における胆汁酸の体内動態と先天性代謝異常に関する研究</p> <p>村井毅 薬品分析化学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・胆汁酸トランスポーターの機能解析に関する研究</p> <p>和田啓爾 衛生化学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・食品の生体機能に及ぼす影響と相互作用の予防</p> <p>増田園子 衛生化学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・ビタミン類のがんおよび骨疾患予防のための分子栄養学的研究</p> <p>青木隆 生化学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・代謝酵素の遺伝子プロモーター領域の機能解析と遺伝子多型に関する研究</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(薬学研究科薬学専攻博士課程)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題研究	(課題研究)	<p>岡崎克則 生化学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・ウイルス感染症の診断および治療法の開発研究</p> <p>平藤雅彦 薬理学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・生理活性アミンの病態生理学的役割の解明</p> <p>飯塚健治 薬理学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・圧力付加環境下における生体応答性の変化に関する研究</p> <p>島村佳一 薬理学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・興奮性組織の活動の神経性調節に関する薬理学的研究</p> <p>齊藤浩司 薬剤学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・医薬品の体内動態の解明とその制御に関する研究</p> <p>小林道也 薬剤学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・医薬品による副作用の発現機序とその回避に関する研究</p> <p>唯野貢司 薬剤学領域の主に次の研究課題を中心に研究指導を行う。 ・医薬品の適正使用とTDMに関する研究</p>	
専門薬剤師	専門薬剤師特別講義	<p>専門薬剤師に求められる実践的な専門知識について、臨床における諸課題や最新の知見などを中心に総合的に学ぶとともに、チーム医療における専門薬剤師の役割と意義についても理解を深める。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。